

なつ かな  
懐かしい哀しみ

きむら そえみ  
木村 副見

なつ かな  
懐かしい哀しみ。

ひとり こ ぼく おさな ころ しゆ ことくかん いた  
一人っ子だった僕は、幼い頃からある種の孤独感を抱いていた。

りょうしん ともだち けつ まじ ぼく しんじょう  
それは、両親にも友達にも決して交わることのない僕だけの心情だった。

おさな ちち てんきん てんきよ たび おも つよ  
幼いころから父の転勤で転居する度にその思いは強くなり、

ぼく けつ ひと りかい う い そがいかん いっしょ  
僕は決して人に理解され、受け入れられることがないという疎外感といつも一緒だった。

しゃかいじん わす  
しかし社会人となり、そんなことはいつのまにか忘れていった。

ひと ひと ふか まじ せかい ゆえ し  
それは、人と人が深く交わることのない世界だった故かも知れない。

とし おも き  
しかし、こうして齢をかさねてみると、その思いが消えていったわけではないことに気づく。

じぶん なか かた たし ほんざい  
自分の中に固いしこりとなって確かに存在している…。

かな よ しんじつ ぼく かえ  
そして、その哀しみこそがこの世の真実であり、僕の帰るべきところは

ほしぞら かた いがい せつ おも  
星空のかなたにおわしますあの方のところ以外にないのだと切なく思う。

\*\*\* \*\*

さいきん よ い かな つよ かん  
最近、この世で生きてゆくことのむなしさと哀しみを強く感じています。

じんせい あいかん かん なに ころ な  
人生の哀歓を感じて何かにつけ、心が泣いています。

ひと ふかんぜん ほんざい  
人はどこまでいっても、不完全な存在です。

はや しゆ い つよ かん  
それだからこそ、早く主のもとへ行きたいと、ますます強く感じてしまいます。

\*\*\* \*\*

なじかはしらねど…。

よ あき おも おも ひと かな おも おも  
この世の秋を思えば思うほど、人の哀しみを思えば思うほど、

さ かみ いづく ひと あい ころ し  
去って神の慈しみと人の愛が心に滲みってくる…。

い しゆ まえ かんしや ささ  
さあ、ミサに行き、主の前にただただ感謝を捧げよう。